

おいしい話
その⑤
【市場にて】
高橋順子

先日、住まいの東京から豊橋、金沢へ行く用事があって、同じ路線を通らずに行くことにした。乗車券を求めると、「東京―東京」となっていた。「こういうのは往復ではないし、連続というのですか」と窓口の人にたずねると「片道です」といわれた。片道切符というのは、自由で不安な感じもあるが、「東京―東京」ではなんだか面白くない。

金沢で用事が済んだ後、近江町市場に寄った。二十年前にも来ているが、そのときは場内の食堂で「きときと定食」なるものを食べた。煮魚だった。「きときと」は、新鮮で、いきがいいということ。

このたびは金沢で生まれ育ったという女性詩人が案内してくれた。お母さんに連れられて買物の仕方をおぼえたというから、よいものを見分ける目を鍛えられている。「この市場は女という字に道が作られているんです。このへんは女という字の真ん中の広場よ」。女性にも粋な話に聞こえる。彼女に選んでもらって、ノドグロの干物を買った。ノドグロはアカムツの異称だそうで、きれいで、味は絶品だった。